

[先人No.9] 私財を投じて玉川上水を開削した

玉川兄弟 たまがわきょうだい

兄・庄右衛門しょうえもん (不明～1695) 弟・清右衛門せいえもん (不明～1696)

多摩川の水を羽村（現在の羽村市羽東）から取水して、武蔵野台地を横切り、四谷大木戸（現在の新宿区四谷4丁目）まで至る、総延長約43kmの玉川上水。この上水は、江戸時代初頭、玉川兄弟によって開削されました。



玉川兄弟

玉川兄弟と呼ばれている、兄・庄右衛門（しょうえもん）、弟・清右衛門（せいえもん）の生誕から玉川上水開削以前の、詳しい資料は残されていません。開削

工事を命じられたいきさつは、江戸の町人説や多摩川沿岸（羽村付近）に関わりのある人物だった為、又、兄弟が土木業・人入れ稼業を営み、多摩川中流部の事情に詳しくあった為など、いろいろな説があります。

江戸の水不足による上水拡張計画

江戸初期の1650年頃、江戸のまちは、神田上水と溜池上水で給水を行っていましたが、まちの発展に伴う人口の増加で、水不足が生じるようになっていました。



江戸時代に書かれた羽村堰

四代目将軍・徳川家綱（とくがわいえつな）は、上水拡張の計画をたて、町奉行・神尾備前守（かみおびぜんのかみ）に、多摩川を水源とする上水開削を命じました。

神尾備前守は、庄右衛門と清右衛門に、上水を開削するための調査を命じます。これを受けた兄弟は各地を調べ、多摩川からの取水地点を羽村にする計画を立てました。

幕府は松平伊豆守信綱（まつだいらいずのかみのぶつな）を総奉行に、伊奈半十郎忠治を玉川水道奉行に任じ、庄右衛門と清右衛門に開削工事を命じました。

私財を投じて開削を続ける兄弟

兄弟は、幕府から工事費用六千両を受け、承応2（1653）年に上水工事を着工しました。

工事は、多摩川の水を羽村で取水し、勾配を利用して四谷大木戸まで掘り、そこから虎ノ門まで、石樋や木樋でつなぐ予定で進められていました。



玉川上水羽村堰陣屋門

しかし、高井戸（現在の杉並区）付近で、工事費用が尽きてしまいます。

兄弟は、幕府に工事費の追加を申し出ましたが、幕府からの返答は「完成するまでは自分で費用を工面し、虎ノ門まで堀削せよ」というものでした。兄弟はこの費用を工面するため、自己資金二千両と所有の町屋敷3箇所を売って千両を調達し、私財を投じて工事を続けました。

そして、7ヶ月間で羽村から四谷大木戸までを、翌年11月には虎ノ門までの工事を完了させ、約1年半という短い期間で、この大事業を成し遂げたのでした。

承応1（1653）年11月に完成した、玉川上水の総延長は10里30町（約43Km）、途中29ヵ村を通り四谷大木戸まで至りました。そこから虎ノ門までは、21里20町29間（約84Km）にも及び、石樋と木樋がつかわれ給水されました。

その後、玉川上水は、灌漑用水や江戸の住人の飲料水として重要な役割を果たし、350年以上たった今でも利用されています。

玉川上水役に任じられる

幕府は、庄右衛門・清右衛門の働きを賞して、永代玉川上水役を命じ、玉川姓を名乗ることと帯刀を許し、4年間にわたって200石分の扶持を与えました。

しかし、兄弟は、上水開削工事で私財を投じているうえに、毎年の羽村大堰の破損工事をしていくには、この手当では難しいと嘆願します。そして、万治2（1659）年から、玉川上水を利用する武家や町方から、水上修復料銀[*1]を取り立てることが許されます。

玉川上水の完成から約40年後の元禄8(1695)年、兄・庄右衛門、その翌年、弟・清右衛門が亡くなり、玉川上水役は、庄衛門・清右衛門の名とともに、代々玉川家に世襲されていきました。

その後、明治44（1911）年、政府は玉川兄弟の功績を賞して、兩人に従五位を追贈[*2]しました。

年号	西暦	月.日	年齢	略歴
承応1	1652			玉川上水開削の調査をする。
		12.25		多摩川を水源とする上水工事の寄合に、兄弟が召集される。
承応2	1653	4.4		玉川上水の開削工事を着工。
		11.15		羽村から四谷大木戸までの工事が完了。
承応3	1654	11		四谷大木戸から虎ノ門までの工事が完了。
明暦1	1655			4年間にわたって、200石分の扶持を与えられる。
				永代玉川上水役を命じられ、玉川の姓と帯刀を許される。
万治2	1659			水上修復料銀を取り立てることを許される。
元禄8	1695	6.6		兄・庄右衛門、死去。
元禄9	1696	5.5		弟・清右衛門、死去。

玉川上水

多摩川の水を取水している羽村堰は、明治に入り現在の姿に改築されました。そして昭和33（1958）年、羽村取水口に、玉川兄弟の銅像が建てられました。



現役の導水路として使われている玉川上水は、小平水衛所から東村山浄水場に送水して、都民の飲み水に利用されています。

春は桜、夏には緑におおわれ、秋には紅葉が美しい歴史ある玉川上水は、多摩川八景の1つに選ばれています。

***1** 水上修復料銀 (みなかみしゅうりりょうぎん)

- ．．． 上水の使用料で水道使用料のようなもの。武家は石高 (こくだか：収穫した米穀の数量) に応じて料金を定め、石高が大きいほど、割安というシステムがとられ、町方は家の間口による小間割で徴収した。

***2** 追贈 (ついぞう)

- ．．． 死後に官位・称号・勲章などを贈ること。

[▲ ページトップへ](#)

[TRMの紹介](#) | [多摩川の魅力と人の動き](#) | [川で活動するために](#) | [調べてみよう](#)